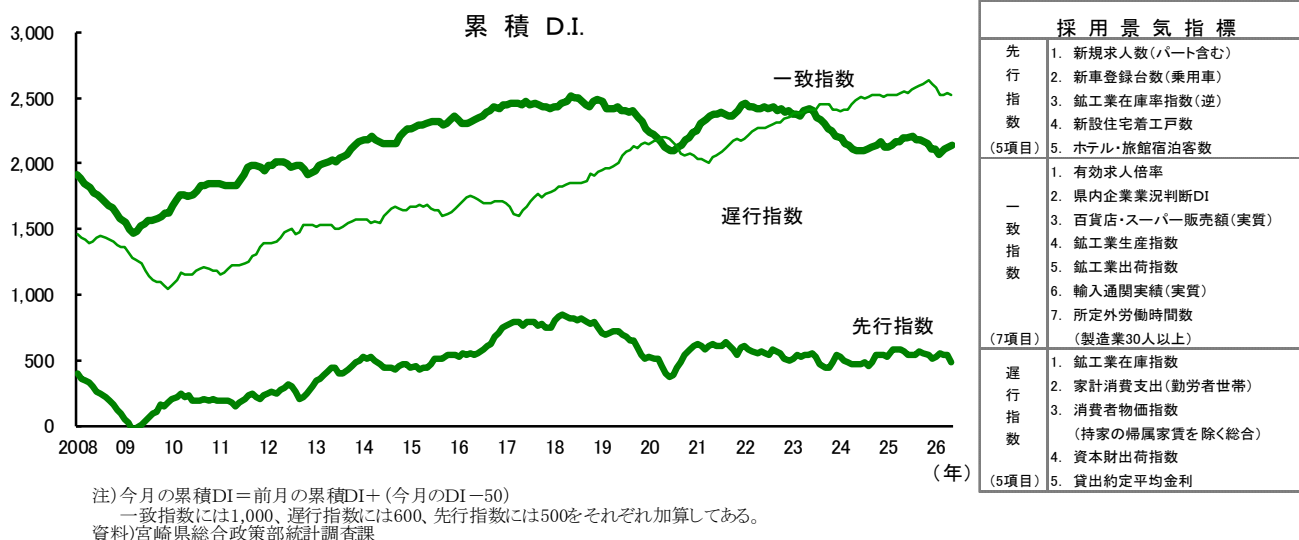


1. 景気動向指数

2026 年 5 月の景気動向一致指数は、鉱工業出荷指数、所定外労働時間数（製造業 30 人以上）、有効求人倍率、百貨店・スーパー販売額（実質）の 4 項目がプラスとなり、全体で 57.1%と 3 カ月連続で 50.0%を上回った（7 項目のうちプラス 4）。

先行指数は、新車登録台数（乗用車）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数、新規求人数（パート含む）、鉱工業在庫指数（逆）の 5 項目がマイナスとなり、全体では 0.0%と 3 カ月連続で 50.0%を下回った（5 項目のうちマイナス 5）。

遅行指数は、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、家計消費支出（勤労者世帯）、貸出約定平均金利の 3 項目がプラスとなり、全体で 40.0%と 2 カ月ぶりに 50.0%を下回った（5 項目のうちマイナス 3）。



景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したものである。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行性を表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数=(プラス項目数+横ばい項目数×0.5)÷(プラス項目数+横ばい項目数+マイナス項目数)×100(%)

2. 鉱工業生産

5 月の鉱工業生産指数は、85.1 で前年同月比 17.4%減と前年を下回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス（同 23.5%増）が前年を上回った一方、繊維（同 14.7%減）、食料品（同 10.1%減）、化学（同 7.9%減）は前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

7 月の公共工事請負金額は、170 億 18 百万円で前年同月比 3.3%増と 3 カ月ぶりに前年を上回った。発注者別にみると、国が同 45.5%増、県が同 23.8%増、その他（独立行政法人等）が同 107.6%増となった一方、市町村は同 29.7%減となった。

② 着工建築物

6 月の着工建築物は、棟数は 346 棟で前年同月比 5.5%増、床面積は 5 万 6,018 ㎡で同 28.4%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同 4.0%増、床面積が同 11.8%増となり、非居住用は棟数が同 12.7%増、床面積が同 70.2%増となった。

③ 住宅着工

6月の新設住宅着工戸数は、持家、分譲が前年を上回った一方、貸家は前年を下回った。県内合計は368戸で前年同月比2.2%増と3カ月連続で前年を上回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

6月の百貨店・スーパー販売額は、55億6,100万円で前年同月比7.5%減となった。商品別では、衣料品は7億3,300万円で同15.8%減、飲食料品は32億900万円で同3.7%減、その他計は16億1,800万円で同10.4%減となった。

② 乗用車新車販売動向

4月の乗用車新車登録台数は、1,638台で前年同月比20.4%増となった。車種別にみると、普通車は1,100台で同22.2%増、小型車は538台で同16.7%増となった。

5. 消費者物価指数

6月の宮崎市の消費者物価指数は、113.7で前年同月比1.1%増だった。

6. 企業倒産

7月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は7件（前年同月3件）で前年を上回った。負債総額は16億900万円（同13億5,600万円）で3カ月連続で前年を上回った。

7. 雇用情勢

6月の有効求人倍率は、前月より0.01ポイント低下し1.16倍となった。新規求人数は8,260人で前月比3.1%減となった。雇用保険受給者数は、5,815人で前年同月比21.4%増となった。

〈今月のトピックス〉～宮崎市の消費者物価指数

宮崎市の 2025 年平均の消費者物価指数は、20 年を 100 とした総合指数で前年比 3.7% 増の 113.0 となり、4 年連続で上昇した。

10 大費目別の寄与度を大きい順にみると、上昇に寄与した費目は、「食料」(1.93)、「交通・通信」(0.48)、「光熱・水道」(0.43)、「住居」(0.35)、「教育娯楽」(0.34)、「被服及び履物」(0.14)、「家具・家事用品」(0.12)、「諸雑費」(0.12)、「保健医療」(0.09) となった。一方、下落に寄与した費目は「教育」(▲0.31) だった。

消費者物価指数の総合指数と前年比の推移(2020年=100)

